



新社会党東京都本部委員長

江原ひであきアピール 2004.7

江原ひであき事務所

中野区南台 2-32-1 電話(03)3381-7656 FAX (03)3383-8535

ホームページ <http://www7.ebara.or.jp/ebara-hideaki/>

Eメール hide-eba@cameo.plala.or.jp

新たな政治の創造を！

参院選が終わって。

参議院選挙が11日に終わりました。自民党が後退し民主党が躍進しました。自民党敗北の主因は12日以降、各新聞やテレビ等でいろいろな角度から分析がされています。ほぼ共通しているのは年金関連法の強行採決とイラク自衛隊の多国籍軍参加の決定過程が大きいと見られています。この間の小泉首相の国会答弁やマスコミへの対応が、不真面目、軽薄、無責任、傲慢、国会軽視、国民軽視、思い上がり等々と受け止められ、有権者から怒りをかった、と見ていることです。

これらについて私自身は、12日の日誌でやや詳しくふれました。是非ご覧下さい。

尚、選挙の結果で深刻に受け止めなければならないのは、憲法を護るという共産党が15の改選議席を11も減らしてしまい当選者4ということです。(比例票でも436万票しか取れなかった)。

私たちがなすべき総括は、選挙結果をどう分析するか 当面の課題は何か 今後の戦いの方向は、ということを明らかにする事が大切です。

そこで最初に「選挙結果の分析」です。

マスコミ誘導(資本の要請?)の2大政党の定着?の感がしてきましたが自民と民主はどこが違うのか! 正しい認識が望まれます。

基本は同じ。

世界戦略は両党ともに米基軸に変わりなく、有志連合が国連重視かの違いであり、軍隊の保有と派兵では大差ない。

憲法(9条改悪)は同じ。自衛隊を軍隊(陸海空)にする。

構造改革は、両党スピードの競い合い。

社会保障は、小さな政府と民営化、自己責任。等々です。つまり、基本は同じといわなければなりません。

第二は「当面の課題」です。

12 日の日誌にも書きましたが、選挙結果が示すように「民意はこれまでの小泉政権のありようを認めなかった」(朝日社説)という事実を明記しなければなりません。この事実を踏まえ、全野党は、先の通常国会で強行採決した「年金関連法」は廃止して、新たに民意を汲んだものを提案する(させる)こと。 、イラク自衛隊の多国籍軍参加は誤りとして離脱し、ただちに撤退する(させる)こと。 、小泉構造改革(弱肉強食)による社会の歪み、貧富の差の拡大、荒廃した社会等々の責任追及。 、社会保障制度全般についての改悪阻止等々に全力をあげ、その延長として小泉内閣打倒！の戦いを国民によびかけることです。

第三に「今後どのように闘うか！」です。

新たな政治の創造を！

選挙結果は「共産激減、社民衰退」、両党併せて6議席。この厳しい現実を直視し、あらゆる角度からの総括が必要です。

自民、民主、(公明)の基本政策は前述の通り大差はありません。財界の代弁者だからです。支配層の目指す 21 世紀の日本のありようは、アメリカと共に軍事力を背景にした経済大国としての世界制覇です。

そのために打ち出される戦略的政策は、憲法(9条)改悪と教育基本法の改悪、さらには小泉改革の一層の推進で弱肉強食政策の強行、社会保障政策の改悪は必然です。

したがって私達が目指す戦いの方向は前述の支配層とその代弁者、自(公)民に対し政策的に対峙する新たな政治を創造する勢力を結集する以外に道はありません。

具体的には、社民、新社会、共産。無党派市民や労働組合等諸団体が大同団結して、共同闘争を発展させることです。選挙も然りです。頑張りましょう。

あなた、のご意見をお寄せ下さい。

(2004年7月20日 江原ひであき)